

試料・情報利用研究計画書(概要)						
審査委員会 受付番号	2020-1024	利用 形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:地域住民コホート67K対象者のうち、SNPアレイ情報がある者 約51,000人 試料:なし 情報:基本情報、調査票情報、特定健康診査情報、検体検査情報、ゲノム配列情報	
主たる研究機関	東北大学医学系研究科			分担 研究機関	東北メディカル・メガバンク機構	
研究題目	東北メディカル・メガバンク機構の地域住民コホートデータベースを用いた腎機能増悪因子の包括的検討			研究期間	2020年10月～2022年3月	
実施責任者	上月 正博	所属	東北大学医学系研究科		職位	教授
研究目的と意義	東北メディカル・メガバンク計画の地域住民コホートデータを用いて腎機能障害患者のDNA情報(腎機能障害に影響するとされる625遺伝子)、採血尿検査データ、調査票情報について調査を行い、腎機能障害悪化に影響を及ぼす因子について明らかにする。					
研究計画概要	<p>【1つ目の研究】</p> <p>①東北メディカル・メガバンク計画の地域住民コホートデータベースに登録された54,000人において、DNA情報(先行研究で腎機能障害と関連があるとされる625遺伝子)、採血データ(血算、グルコース、HbA1c、GOT、GPT、<math>\gamma</math> GTP、総コレステロール、HDLコレステロール、中性脂肪、尿素窒素、Na、K、Cl、Cre、eGFR、尿酸、血清ペプシノゲン、グリコアルブミン、シスタチンC)、尿検査データ(Cre、アルブミン、Na、K、Cl)、調査票情報(年齢、性別、身長、体重、生活習慣情報等)を収集する。625遺伝子変異の保有率を調査する。</p> <p>②625遺伝子と腎機能(eGFR、Cre、シスタチンC等)との関連を解析する。</p> <p>【2つ目の研究】</p> <p>①ベースライン調査時の腎機能異常者(約5,000名)のうち詳細二次調査における腎機能改善群と腎機能悪化群を比較し、腎機能悪化を予測するベースラインの危険因子を分析する。この解析にはApoL1多型あるいは625個のSNPから計算されたPRSと生活習慣の組み合わせを用いる。</p>					
期待される成果	運動療法による腎機能改善や心血管疾患の発生に影響を及ぼす因子を網羅的に解析し、その結果を用いることで腎臓リハビリプログラムの個別化構築をめざす。					
これまでの倫理 審査等の経過	2020年9月 東北大学医学系研究科倫理委員会承認					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	ヒトを対象とする医学系研究の倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理指針、ToMMoセキュリティポリシーの他、別途締結する研究契約を遵守して研究を遂行する。情報は、高度なセキュリティが担保されたスーパーコンピュータ内で利用し、外部へは持ち出さない。					
その他特記事項	科学研究費助成事業					
* 公開日	令和2年12月7日					